

2022年度 和泉短期大学 シラバス

授業科目名	保育内容「環境」		教員氏名	松山洋平		
科目ナンバー	Ⅲ-6-2-1 ③					
学年	1年		開講学期	前期		
授業形態	演習		単位数	1単位		
必修・選択	保育士・幼免必修		実務経験	幼稚園教諭	9年	
テーマ	乳幼児期に育みたい資質・能力の理解に基づき、要領・指針に示された保育内容「環境」のねらい及び内容を理解する					
ディプロマポリシー	1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。				○	
カリキュラムポリシー	科目群Ⅰ 教養	キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する				
	科目群Ⅱ 原理	様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う				
	科目群Ⅲ 知識・技能	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける				○
	科目群Ⅳ 実践	学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う				○
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境について様々な資料を通して学び、子どもにとってふさわしい環境について学ぶ。 ・子どもの育ちと、年齢に応じた環境への関わりを理解し、保育環境の構成の意味や保育者の役割について学ぶ。 ・学生自身が実際に自然や身の回りにある素材を用いた遊びを体験することを通して、子どもが身近な環境にかかわって遊ぶことの意味を体験的に理解する。 ・保育者としての実務経験をもとに具体的な演習と理論とを組み合わせる授業を展開する。 					
授業の到達目標	・子どもを取り巻く環境(人的、物的、自然、社会、文化など)と、保育内容「環境」のねらいと内容を理解する。					
	・身近な環境(生物・自然・施設・情報・素材・教材・図形・文字など)に関わることによって育つ、子どもの思考や概念について理解する。					
	・環境に関わりながら遊ぶ子どもの発達とそれを支える保育者の役割を理解する。					
テキスト	『保育内容環境 あなたならどうしますか?』(酒井幸子ほか 萌文書林)					
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
ポートフォリオ	指定された課題に取り組み、ポートフォリオに綴じる					
往還型授業 (双方向授業)	授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする				○	
	リアクションペーパーを用いて、授業内での疑問等を対話形式にて対応する				○	
	リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める					
	ICT(グーグルクラスルーム含む)を活用した課題提示・回収、アンケート等を実施する				○	
	その他:					
成績評価方法	区分	割合(%)	内容			
	定期試験	0	実施しない			
	授業内課題参加度 出席態度等	100	授業内評価。 各回の提出課題70%、授業態度と意欲30%。 (授業態度と意欲にはディスカッションへの参加、ワークシートの作成も含む。)			
	その他	0	なし			

授業概要と課題			
第1回	テーマ 内容	オリエンテーション・保育内容「環境」とは	
	授業外学習	<予習・復習>授業の概要を確認し、自身の身の回りの環境に関心をもつ。次回の授業内容について事前学習を行う。	55分
第2回	テーマ 内容	環境を通して行う保育とは	
	授業外指示	<予習・復習>テキスト1章を読む。 配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第3回	テーマ 内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育保育要領にみる保育内容「環境」	
	授業外指示	<予習・復習>保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育保育要領の保育内容「環境」を読む。 配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第4回	テーマ 内容	子どもを取り巻く「環境」の実践的課題 園での生活と保育内容「環境」	
	授業外指示	<予習・復習>テキスト1, 2章を読む。 テキストや配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第5回	テーマ 内容	子どもの発達の理解と身近な環境	
	授業外指示	<予習・復習>子どもの成長発達過程と環境とのかかわりを確認する。テキストや配布資料に基づき、 学習した内容を振り返る。	55分
第6回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(1) 子どもの生活と自然の大切さの意味	
	授業外指示	<予習・復習>子どもたちを取り巻く社会状況や身の回りの環境に関心をもち、学習した内容を振り返る。	55分
第7回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(2) 子ども理解と環境構成・室内環境の構成から	
	授業外指示	<予習・復習>発達に応じた環境構成の基本を調べる。	55分
第8回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(3) 対話と探求と遊びの環境・園庭環境の構成から	
	授業外指示	<予習・復習>公園や大学構内にある草木や花の名前を調べる。学習した内容を振り返る。	55分
第9回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(4) 多様な素材や道具との関わりからの学び	
	授業外指示	<予習・復習>身の回りにある「物」に関心を向け、子どもの遊びに利用できるものを確認する。 テキストや配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分

第10回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(5) 季節の変化・行事と子どもの経験	
	授業外指示	〈予習・復習〉テキストや配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第11回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(6) 親しみと畏敬の念・生き物との関わりから	
	授業外指示	〈予習・復習〉テキストや配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第12回	テーマ 内容	保育内容「環境」に関連する模擬指導案作成 環境へのかかわりを支える保育者の役割	
	授業外指示	〈予習・復習〉保育環境と保育者の援助について、配布資料やテキストに基づき、これまで学習した内容をまとめる。	55分
第13回	テーマ 内容	まとめ、これまでの学びを振り返る	
	授業外指示	〈予習・復習〉保育内容「環境」の授業を通して、子どもの育ちを支える環境について総括する。	55分

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、次回以降の授業時に口頭やプリントにてフィードバックを行う。

2022年度 和泉短期大学 シラバス

授業科目名	保育内容「環境」		教員氏名	吉田 久仁子	
科目ナンバー	Ⅲ-6-2-1 ③				
学年	1年		開講学期	前期	
授業形態	演習		単位数	1単位	
必修・選択	保育士・幼免必修		実務経験	幼稚園教諭・保育士	26年
テーマ	乳幼児期に育みたい資質・能力の理解に基づき、要領・指針に示された保育内容「環境」のねらい及び内容を理解する				
ディプロマポリシー	1.保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、幅広い教養を身に付け、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。 2.保育・福祉の専門的な知識・技能を修得し、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を身に付けている。 3.保育・福祉の専門職として多世代にわたる人々の権利を護り、愛と奉仕の精神を実践できる。				○
カリキュラムポリシー	科目群Ⅰ 教養	キリスト教主義の精神を踏まえて、保育と人権にかかわる人としての価値観を再構築する			
	科目群Ⅱ 原理	様々な世代を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕に基づく人間観を養う			
	科目群Ⅲ 知識・技能	子どもの心と体とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につける			○
	科目群Ⅳ 実践	学んだ知識、技能、価値観を現場に即して臨機応変に実践できる体験を積み、キャリア形成の基礎を培う			○
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境について様々な資料を通して学び、子どもにとってふさわしい環境について学ぶ。 ・子どもの育ちと、年齢に応じた環境への関わりを理解し、保育環境の構成の意味や保育者の役割について学ぶ。 ・学生自身が実際に自然や身の回りにある素材を用いた遊びを体験することを通して、子どもが身近な環境にかかわって遊ぶことの意味を体験的に理解する。 ・保育者としての実務経験をもとに具体的な演習と理論とを組み合わせる授業を展開する。 				
授業の到達目標	・子どもを取り巻く環境(人的、物的、自然、社会、文化など)と、保育内容「環境」のねらいと内容を理解する。				
	・身近な環境(生物・自然・施設・情報・素材・教材・図形・文字など)に関わることによって育つ、子どもの思考や概念について理解する。				
	・環境に関わりながら遊ぶ子どもの発達とそれを支える保育者の役割を理解する。				
テキスト	『保育内容環境 あなたならどうしますか?』(酒井幸子ほか 萌文書林)				
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
ポートフォリオ	指定された課題に取り組み、ポートフォリオに綴じる				
往還型授業 (双方向授業)	授業内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点を、対話を通じて授業内で明確にする				○
	リアクションペーパーを用いて、授業内での疑問等を対話形式にて対応する				○
	リアクションペーパーの内容やテーマをICTを用いて授業内で受講者全員に公開・共有し、往還的理解を深める				
	ICT(グーグルクラスルーム含む)を活用した課題提示・回収、アンケート等を実施する				○
その他:					
成績評価方法	区分	割合(%)	内容		
	定期試験	0	実施しない		
	授業内課題参加度 出席態度等	100	授業内評価。 各回の提出課題70%、授業態度と意欲30%。 (授業態度と意欲にはディスカッションへの参加、ワークシートの作成も含む。)		
	その他	0	なし		

授業概要と課題			
第1回	テーマ 内容	オリエンテーション・保育内容「環境」とは	
	授業外学習	<予習・復習>授業の概要を確認し、自身の身の回りの環境に関心をもつ。次回の授業内容について事前学習を行う。	55分
第2回	テーマ 内容	環境を通して行う保育とは	
	授業外指示	<予習・復習>テキスト1章を読む。 配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第3回	テーマ 内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育保育要領にみる保育内容「環境」	
	授業外指示	<予習・復習>保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園教育保育要領の保育内容「環境」を読む。 配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第4回	テーマ 内容	子どもを取り巻く「環境」の実践的課題 園での生活と保育内容「環境」	
	授業外指示	<予習・復習>テキスト1, 2章を読む。 テキストや配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第5回	テーマ 内容	子どもの発達の理解と身近な環境	
	授業外指示	<予習・復習>子どもの成長発達過程と環境とのかかわりを確認する。テキストや配布資料に基づき、 学習した内容を振り返る。	55分
第6回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(1) 子どもの生活と自然の大切さの意味	
	授業外指示	<予習・復習>子どもたちを取り巻く社会状況や身の回りの環境に関心をもち、学習した内容を振り返る。	55分
第7回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(2) 子ども理解と環境構成・室内環境の構成から	
	授業外指示	<予習・復習>発達に応じた環境構成の基本を調べる。	55分
第8回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(3) 対話と探求と遊びの環境・園庭環境の構成から	
	授業外指示	<予習・復習>公園や大学構内にある草木や花の名前を調べる。学習した内容を振り返る。	55分
第9回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(4) 多様な素材や道具との関わりからの学び	
	授業外指示	<予習・復習>身の回りにある「物」に関心を向け、子どもの遊びに利用できるものを確認する。 テキストや配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分

第10回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(5) 季節の変化・行事と子どもの経験	
	授業外指示	〈予習・復習〉テキストや配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第11回	テーマ 内容	身近な環境とのかかわり(6) 親しみと畏敬の念・生き物との関わりから	
	授業外指示	〈予習・復習〉テキストや配布資料に基づき、学習した内容を振り返る。	55分
第12回	テーマ 内容	保育内容「環境」に関連する模擬指導案作成 環境へのかかわりを支える保育者の役割	
	授業外指示	〈予習・復習〉保育環境と保育者の援助について、配布資料やテキストに基づき、これまで学習した内容をまとめる。	55分
第13回	テーマ 内容	まとめ、これまでの学びを振り返る	
	授業外指示	〈予習・復習〉保育内容「環境」の授業を通して、子どもの育ちを支える環境について総括する。	55分

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは、次回以降の授業時に口頭やプリントにてフィードバックを行う。